

- 問1 平安時代中期の貴族文化においては、藤原頼通によって建立された平等院鳳凰堂に代表されるように、末法思想の影響を受けて極楽浄土を願う文化が栄えました。このような藤原氏を中心とした摂関政治の時代から、後三条天皇による政治の転換点にかけての説明として正しいものはどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 後三条天皇は、遣唐使を廃止することで国風文化をさらに発展させることに注力した。 | 2. 平将門の乱が鎮圧された直後、武士の力を背景に後三条天皇が摂関家を追放した。 | 3. 後三条天皇は、自らが上皇となった後も政治を行う「院政」の仕組みを完成させた。 | 4. 藤原氏との血縁関係が薄い後三条天皇が即位したことで、摂関家による実権掌握が困難になった。 |
|--|--|---|---|
- 問2 平安時代の中期には、遣唐使の廃止などを背景として、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達しました。この時期、漢字を簡略化した「かな文字」を用いて紫式部によって執筆され、当時の華やかな貴族社会の様子を題材とした物語文学を選んでください。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 源氏物語 | 2. 万葉集 | 3. 枕草子 | 4. 平家物語 |
|---------|--------|--------|---------|
- 問3 平安時代後期、奥州藤原氏が平泉に中尊寺などの寺院群を建立した背景や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 聖武天皇の命により、東北地方の安定を図るための国分寺として建立されたため | 2. 平清盛が推進した日宋貿易に対抗し、東北独自の金輸出ルートを確立するための象徴としたため | 3. 源頼朝の軍勢による攻撃を阻止するため、要塞としての機能を持つ巨大な寺院を建設したため | 4. 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため |
|---|--|---|--|
- 問4 平安時代中期、藤原道長やその子の頼通は、自分の娘を天皇の后（きさき）として送り込み、その子供を次の天皇に立てることで政治の実権を握りました。このように、天皇の母方の親戚（外戚）として、天皇が幼少のときには摂政、成人した後は関白となって政治を行う体制を何といいますか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| 1. 武家政治 | 2. 摂関政治 | 3. 執権政治 | 4. 院政 |
|---------|---------|---------|-------|
- 問5 藤原道長の娘である彰子が一条天皇のきさきとなり、その間に生まれた後一条天皇が即位した例や、平清盛の娘である徳子が高倉天皇のきさきとなり、その間に生まれた安徳天皇が即位した例に共通する、政治権力の背景にある立場を何と呼びますか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 執権 | 2. 管領 | 3. 守護代 | 4. 外戚 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問6 11世紀末、白河天皇が位をゆずって上皇となった後も、引き続き実権を握ることで始めた政治形態を何というか、次の中から選びなさい。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| 1. 執権政治 | 2. 封建制度 | 3. 院政 | 4. 摂関政治 |
|---------|---------|-------|---------|
- 問7 9世紀末以降の日本において、国風文化と呼ばれる貴族文化が発達した背景の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 南蛮貿易を通じてヨーロッパの文化が流入し、伝統的な日本の様式と融合したため。 | 2. 遣唐使が停止され、それまで取り入れられた唐の文化が日本の風土や感性に合うように消化・吸収されたため。 | 3. 日宋貿易によって中国から最新の仏教や学問が連続してもたらされ、それがそのまま定着したため。 | 4. 武士が政治の実権を握ったことで、それまでの貴族文化が否定されて素朴な東国文化が広まったため。 |
|---|---|--|---|
- 問8 日本の古代における文化の変遷について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。なお、古代の政治と暮らしを対比させた資料によると、律令政治が確立した時期から、文字の使用状況に大きな変化が見られたことが示されています。 (2020年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 奈良時代に菅原道真の建議で遣唐使が廃止されたことで、漢字を捨ててかな文字のみを用いる国風文化が誕生し、平安時代には正倉院に見られるような国際的な仏教文化が全盛期を迎えた。 | 2. 奈良時代には遣唐使によって唐の優れた文化が伝えられ、正倉院の宝物に代表されるような国際色豊かな文化が栄えた。その後、平安時代には日本人の生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字が広く使われるようになった。 | 3. 飛鳥時代にはかな文字を用いた和歌が広く親しまれ、奈良時代になると聖徳太子を中心に遣唐使が派遣されて、正倉院に納められるような大陸の仏教文化が日本に初めて伝えられた。 | 4. 飛鳥時代から始まった国風文化は、奈良時代の遣唐使の往来によって国際的な要素を取り入れて洗練され、平安時代に入るとかな文字の普及によって正倉院の建築様式に大きな影響を与えた。 |
|--|---|---|---|
- 問9 遣唐使の停止を建議した菅原道真は、その後の政争に敗れ、九州にある外交や国防の拠点へと左遷されました。この道真が最期を迎えた場所を何と呼びますか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 胆沢城 | 2. 大宰府 | 3. 平城京 | 4. 多賀城 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問10 平安時代後期の政治の変遷をたどると、藤原氏の栄華のあと、白河上皇による新しい政治形態が始まり、やがて保元の乱などの内乱を経て武士が台頭する時代へと移り変わります。この白河上皇による政治が、当時の政治体制に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 上皇がすべての土地を国有化したため、藤原氏が所有していた荘園がすべて没収され、公地公民の制が完全に復活した。 | 2. 上皇が仏教を厚く保護したため、寺院の勢力が弱まり、藤原氏が再び政治の実権を取り戻す結果となった。 | 3. 天皇の父や祖父が上皇として実権を握ることで、藤原氏が摂政・関白として政治を動かす仕組みが崩れ、摂関家の勢力は衰退へ向かった。 | 4. 上皇が武士を北面の武士として組織したことにより、藤原氏と武士が協力して朝廷を支配する安定した体制が築かれた。 |
|---|---|---|---|
- 問11 800年代後半から1000年代半ばにかけての政治統計において、1017年前後には公卿の大部分が藤原氏で占められるなど、特定の氏族が圧倒的な力を持っていました。この藤原氏の全盛期を築き、のちに平等院鳳凰堂を建立した藤原頼通の父にあたる人物は誰ですか。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 藤原不比等 | 2. 藤原良房 | 3. 藤原基経 | 4. 藤原道長 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問12 平安時代末期、武士として初めて政治の最高職である太政大臣に就任し、一族の全盛期を築いた人物は誰ですか。この人物は、自身の権威を示すために広島県の厳島神社を大規模に造営し、現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築したことで知られています。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. 織田信長 | 2. 平清盛 | 3. 北条泰時 | 4. 白河上皇 |
|---------|--------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 藤原氏との血縁関係が薄い後三条天皇が即位したことで、摂関家による実権掌握が困難になった。	藤原頼通の時代に全盛期を迎えた摂関政治ですが、後三条天皇の即位によってその形態が崩れ始めました。後三条天皇自身は院政を行う前に没しますが、その後の白河天皇による院政、さらには武士の台頭へと歴史が動く大きな転換点となりました。なお、院政の仕組みを本格的に始めたのは、後三条天皇の次に即位した白河天皇です。
問2	答え 1 源氏物語	平安時代中期、遣唐使の停止により大陸の影響を消化した独自の「国風文化」が花開きました。この時期に発明された「かな文字」は、漢字では表現しきれない日本人の繊細な感情を記すことを可能にし、宮廷に仕える女性たちによる文学が隆盛しました。紫式部によるこの作品は、光源氏を主人公に貴族社会の恋愛や栄華、無常観を描いた、世界最古級の長編物語として知られています。
問3	答え 4 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため	奥州藤原氏の初代清衡は、自身の家族を失うほどの激しい戦乱（前九年合戦・後三年合戦）を経験しました。その惨劇を繰り返さないよう、すべての死者を平等に供養し、現世に仏の理想郷を実現しようとしてしました。この「浄土思想」が平泉の文化形成の大きな背景となっています。
問4	答え 2 摂関政治	藤原氏は他氏を排斥するとともに、娘を天皇の后にして生まれた子（外孫）を天皇に即位させることで、強力な親戚関係（外戚関係）を築きました。天皇の代行者である摂政や、補佐役である関白の職を独占したことから摂関政治と呼ばれます。11世紀前半の道長・頼通の親子二代の時期にその全盛期を迎えました。
問5	答え 4 外戚	天皇の母方の親戚のことを「外戚（がいせき）」と呼びます。平安時代には、有力な貴族や武士が自分の娘を天皇の后（きさき）にし、その子供を次の天皇に立てることで、自分たちが「天皇の祖父」として政治を動かす仕組みが定着していました。藤原氏の摂関政治だけでなく、武士として初めて太政大臣になった平清盛も、この伝統的な外戚関係を利用した政治手法を継承しました。
問6	答え 3 院政	1086年に白河上皇が始めたこの政治体制は、天皇の父や祖父である上皇が「院」において実権を握る仕組みです。これにより、それまで権勢を誇っていた藤原氏による摂関政治を抑え、天皇家の主導権を取り戻す狙いがありました。上皇は独自の軍勢力として北面の武士を組織するなど、武士が歴史の表舞台に登場するきっかけの一つにもなりました。
問7	答え 2 遣唐使が停止され、それまで取り入れられた唐の文化が日本の風土や感性に合うように消化・吸収されたため。	菅原道真の建議によって遣唐使が停止されると、唐の文化の直接的な流入が減少し、それまでに取り入れた文化が日本の生活や感情に馴染む形へと独自に変化していきました。
問8	答え 2 奈良時代には遣唐使によって唐の優れた文化が伝えられ、正倉院の宝物に代表されるような国際色豊かな文化が栄えた。その後、平安時代には日本人の生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字が広く使われるようになった。	奈良時代は、遣唐使によってもたらされた唐の文化や、シルクロードを経由した西アジア・インドなどの影響を強く受け、聖武天皇の遺品などが納められた正倉院の宝物に見られるような国際的な天平文化が栄えました。続く平安時代には、遣唐使の停止などをきっかけに、日本の風土や生活感覚に合わせた国風文化が発達しました。その過程で、漢字を簡略化した「かな文字」が考案され、物語や日記などの文学が発展しました。
問9	答え 2 大宰府	現在の福岡県に位置するこの場所は、古くから大陸に対する外交や防衛の窓口として重要な役割を担っていました。菅原道真は藤原氏との政争によってこの地へ送られ、京へ戻ることなくこの地で没しました。後に、学問の神様として天満宮に祀られることとなります。
問10	答え 3 天皇の父や祖父が上皇として実権を握ることで、藤原氏が摂政・関白として政治を動かす仕組みが崩れ、摂関家の勢力は衰退へ向かった。	摂関政治は、藤原氏が娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てて外戚として権力を握る手法でした。白河上皇は、天皇を退位した後も実権を手放さない「院政」を敷くことで、この摂関政治の仕組みを無効化しました。これにより、政治の中心が摂関家から上皇へと移り、藤原氏の勢力は弱まっていきました。
問11	答え 4 藤原道長	1017年前後は、藤原氏の権力が絶頂に達した時期にあたります。藤原道長は、自分の4人の娘を次々と天皇の后にし、3人の天皇の外祖父（母方の祖父）となって摂関政治の全盛期を築きました。「この世をば 我が世とぞ思ふ…」という歌でも知られています。
問12	答え 2 平清盛	平安時代末期、平氏のリーダーであった平清盛は、武士として初めて最高官職の太政大臣にまで昇り詰めました。彼は瀬戸内海の制海権を掌握し、航路の安全を祈願するために厳島神社を厚く信仰し、現在のような美しい社殿の基礎を築きました。また、貿易による富を蓄えるため、大輪田泊（現在の神戸港）の修築を行うなど、政治と経済の両面で大きな影響力を持ちました。